

大阪体育大学

大学スポーツ・サステナビリティ・インパクトレポート2024

－ 2024年度活動のインパクト －

OUHS
College Sports Sustainability Impact Report 2024
－ Impact of Activities in 2024 －

2026年7月

大学スポーツを通じて、人を育て、地域をつなぎ、well-beingに貢献する

大阪体育大学
Osaka University of Health and Sport Sciences



本物を学び、極める

目次	
I 大阪体育大学における大学スポーツ	
1. 大阪体育大学の概要	4
2. 大体大が目指す大学スポーツの未来	5
II 大阪体育大学が描く、大学スポーツの社会的価値	
1. 大体大ビジョン2031と社会貢献	7
2. 大体大サステナビリティ	8
3. 大体大スポーツSDGs	9
4. 大体大スポーツSDGsウェブサイト	10
5. 大体大・大学スポーツエコシステム	11
III 大体大・大学スポーツエコシステムが生み出す社会的価値	
1. 本レポートにおけるインパクトの捉え方	13
2. 大体大スポーツエコシステムのインパクト・サマリー（2024年度）	14
① 社会貢献センターの取り組み	15
② スポーツ局の取り組み	20
③ クラブ活動の取り組み	25
3. 本レポートが明らかにしたこと / 今後の課題と展望	37
IV 大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度（検討中）	38
資料① 大学スポーツSDGs17目標達成への貢献の判断基準	40
資料② クラブ・同好会一覧	41

I.

大阪体育大学における大学スポーツ

1. 大阪体育大学の概要
2. 大体大が目指す大学スポーツの未来



1. 大阪体育大学の概要

— 教育・研究・スポーツの実践を通じて社会に貢献する大学 —

大阪体育大学は、1965年に西日本初の体育大学として設立された。開学以来、スポーツ活動の実践を通じた教員・指導者養成を大きな柱としながら、スポーツ選手を支える人材や、スポーツ活動、健康づくりをマネジメントする人材の養成にも力を注いできた。

その原点にあるのが、「不断的努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」という建学の精神である。草創期を支えた加藤橘夫元学長（初代体育学部長）は、東京大学教授として体育・スポーツの研究と教育を牽引し、日本体育学会の創立にも貢献した理論家であった。大島鎌吉初代副学長は、1932年ロサンゼルス五輪三段跳銅メダリストであり、1964年東京五輪では選手強化対策本部長・日本選手団長を務めた人物である。両氏の志は、体育・スポーツの力で社会に貢献するという本学の原点として、今日の教育・研究・社会貢献にも受け継がれている。

現在、本学はスポーツ科学部、教育学部、大学院スポーツ科学研究科を擁し、在学者数は2,767人（2024年度）である。大体大ビジョン2031では「本物を学び、極める」を掲げ、教育・研究・社会貢献を通じて社会の多様な価値創造に貢献する大学として歩んでいる。こうした歴史、教育研究体制、人材育成の蓄積を基盤として、大阪体育大学は大学スポーツを通じた社会的価値の創出と発信に取り組んでいる。



加藤橘夫 元学長



大島鎌吉 元副学長



大阪体育大学茨木キャンパス（1965～1988年）

【ポイント】

- 大阪体育大学は、西日本初の体育大学として1965年に設立された。
- スポーツ科学部、教育学部、大学院スポーツ科学研究科を擁し、教育・研究・スポーツを一体で展開している。
- 充実した施設とカリキュラム、実践環境を基盤に、社会に貢献する人材を育成している。

2. 大体大が目指す大学スポーツの未来

— 学生・地域・社会のwell-beingを支える大学スポーツへ —



現代社会において大学に求められる役割は、教育・研究にとどまらない。地域連携、人材育成、健康課題、多様性と共生への対応など、大学が社会に果たす責任と役割が問われている。こうした視点は、USR (University Social Responsibility: 大学の社会的責任) として捉えることができる。

本学は、大学スポーツを教育・研究・社会貢献の結節点として捉え、学生の成長、地域とのつながり、社会課題への応答を生み出す実践基盤として発展させてきた。本学の大学スポーツは、単なる競技活動ではなく、学生が挑戦し、協働し、責任を学び、社会と関わる力を育む場である。同時に、地域や社会との接点を広げ、well-beingの向上に貢献し得る公共的实践でもある。

本レポートは、その価値を可視化し、社会に向けて伝えるためのものである。大学スポーツの価値は、これまで競技成果や個別活動の紹介にとどまりがちで、社会的価値として十分に共有されてこなかった。そこで本レポートでは、その背後にある学生の成長、地域との共創、社会課題への応答を示すことで、本学が目指す大学スポーツの未来を明らかにする。

本レポートでは、その価値をまずスポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターという中核3機能から可視化する。

【ポイント】

- 大阪体育大学には、学生が成長し、地域や社会とつながる大学スポーツの実践基盤がある。
- その実践基盤を、教育・研究・社会貢献が循環する価値創造の場へと高めていく。
- 大学スポーツの価値を可視化し、学生・地域・社会のwell-beingを支える未来へ広げていく。

Ⅱ.

大阪体育大学が描く、大学スポーツの社会的価値

1. 大体大ビジョン2031と社会貢献
2. 大体大サステナビリティ
3. 大体大スポーツSDGs
4. 大体大スポーツSDGsウェブサイト
5. 大体大・大学スポーツエコシステム



1. 大体大ビジョン2031と社会貢献



【ポイント】

- 本学は、社会貢献を大学の重要な柱として位置づけている。
- 社会貢献は、本学の資源を活かした社会的価値の創造と社会還元である。
- 学生の学びと実践を社会的意義へつなげることに、本学の特徴がある。

大阪体育大学は、「大体大ビジョン2031」において、「社会貢献」を大学の重要な柱の一つとして位置づけている。本学における社会貢献とは、大学が外部に対して何らかの支援を行うことにとどまらず、スポーツを基軸に、教育、研究、人材育成といった本学固有の資源を活かし、社会と接続しながら新たな価値を創出し、それを持続的に社会へ還元していく営みである。

その根底にあるのが、「不断努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」という建学の精神と、「本物を学び、極める。」という本学の基本姿勢である。ビジョン2031では、スポーツと人材育成によるSDGs達成への貢献、体育・スポーツ・教育の価値向上、大学スポーツ振興の推進体制強化などが示されている。

本学にとって社会貢献とは、活動の量を増やすことではなく、学生一人ひとりの学びと実践が地域や社会への貢献へとつながっていくことに本質がある。ここに、体育大学としての資源を社会的意義へと転換していく、本学の社会貢献の特徴がある。

2. 大体大サステナビリティ

— 大学スポーツを、社会を支える実践インフラへ —

【ポイント】

- 本学のサステナビリティは、well-beingを含む広い社会的持続可能性である。
- 大学スポーツは、教育・地域・共生を支える公共の実践の場である。
- 本学は、大学スポーツを社会を支える実践インフラとして位置づける。

本学が捉えるサステナビリティは、環境配慮にとどまらず、教育、健康、地域、共生、そしてwell-beingを含む広い社会的持続可能性である。大学は、知的・人的・実践的資源を通じて、その実現に継続的に役割を果たす責任を担っている。

この視点に立つと、本学の大学スポーツは単なる課外活動ではない。学生の成長を促す教育の場であり、地域と接続する社会実践の場であり、健康や共生に寄与する公共的な場でもある。本学におけるサステナビリティとは、こうした大学スポーツの実践を通じて、教育・健康・地域・共生・well-beingを持続的に支えていく考え方である。

本学は、この大学スポーツを「社会を支える実践インフラ」として捉える。大学スポーツを学内に閉じた活動ではなく、社会を支える基盤として再定義する考え方である。ここに、「大学スポーツを社会インフラへ」という大体大サステナビリティの核心があり、本学はこの価値を継続的に社会へ接続していく。



大阪体育大学 CAMPUS NEWS

本学学生延べ約150人が中学などで部活動指導育成講座「グッドコーチ養成セミナー」修了証を7名に授与

中学校などで運動部活動の指導にあたる学生を育成する大阪体育大学の「グッドコーチ養成セミナー」の2024年度修了証が、本学学生7名に授与されました。運動部活動は、国が中学校の週末の部活動を学校部活動（学校教育）として地域と連携する方針や、新たな地域クラブ活動（社会教育）として地域の社会スポーツクラブに移行する方針を打ち出すなど大きな転機を迎えています。教員の長時間労働の是正、指導者による体罰の防止などの観点からの改革も急務です。このため、大阪体育大学はスポーツ庁からの事業受託を契機に、運動部活動改革プロジェクトを推進しています。

小中学生約320人と剣道で交流、指導錬成会を開催

剣道の「大阪体育大学指導錬成会」が2月14日（土）、大阪体育大学第1体育館剣道場、バスケットボール場で開催されました。

男女剣道部員が大阪市内の道場に訪れた小中学生約320人を指導しました。

錬成会は大阪府剣道連盟連盟の主催。2017年、少年・少女剣士の指導の場を広げる狙いで錬成会から神崎道場（現会長）に依頼があり、スタートしました。新型コロナウイルス感染症での中断をはさんで、毎年実施されています。子どもたちに大学の雰囲気を知ってもらおうと、基本的に学内で開催しています。

今回の錬成会は「楽しく稽古する」がテーマ。参加者の少年・少女に、より剣道の楽しさが伝わるような稽古メニューを3年生が中心になって考え、指導します。

続きは大阪体育大学公式HPをご覧ください。

3. 大体大スポーツSDGs

— 大学スポーツの価値を社会課題へ接続する実装フレーム —

【ポイント】

- 大体大スポーツSDGsは、本学の価値創造を支える実装フレームである。
- 大学の実践を、社会課題とwell-beingの視点で再編集する。
- 本学の取り組みを、社会に伝わる価値へ翻訳し、接続する。

本学では、研究、教育、社会貢献、そしてスポーツという本学固有の資産を活用し、社会課題への応答と共有価値の創造へ結びつける枠組みとして、「大体大スポーツSDGs」を推進している。これは、組織横断型・社会連携型・パートナーシップ型のプロジェクトとして、本学の多様な実践をつなぐ実装フレームである。

ここで重要なのは、SDGsを単なる目標一覧や活動のラベリングとして扱わないことである。「大体大スポーツSDGs」は、大学の実践を社会課題の解決や共有価値の創造という視点から再編集し、学内外の多様な主体とつなぐ共通言語である。同時に、本学の教育・研究・スポーツ・社会連携の実践を、社会に伝わる形へ翻訳し、外部の多様な主体が重視する社会課題と接続する枠組みでもある。

このフレームを通じて、本学の大学スポーツは教育、健康、地域、共生といった複数の社会領域に接続される。こうして生み出される成果は、学生・地域・社会のwell-beingへとつながると同時に、本学の教育・研究・社会貢献の価値をさらに高める循環を生み出していく。すなわち、大体大スポーツSDGsは、大学スポーツの価値を社会課題と接続し、共有価値の創造へと導く実装フレームである。



大阪体育大学は、「大体大ビジョン2031」の基本戦略「社会貢献」の重点施策として「スポーツと人材育成によるSDGs達成への貢献と体育・スポーツ・教育の価値向上の事業推進」を掲げました。SDGsは、「環境」と共に地域の「社会」と「経済」を持続的に発展させる仕組み、そして、企業を発展に導くビジネスモデルとして注目されています。大学スポーツにおけるSDGsの取り組みや体系化はまだ始まったばかりです。本学は、「大学スポーツSDGs」の体系化を図り、大学スポーツのステークホルダーとの共有価値創造のための社会貢献活動を推進し、SDGs目標の達成と社会とスポーツ界の持続可能な発展に貢献していきます。

4. 「大体大スポーツSDGs」ウェブサイト

— Actions 掲載記事からみるSDGs目標への貢献 —

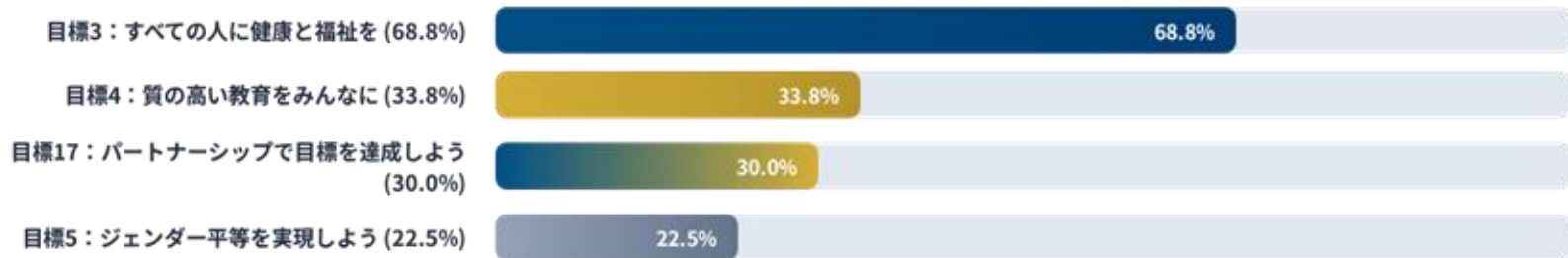
【ポイント】

- ACTIONS掲載記事の分析から、本学の実践傾向が読み取れる。
- 記事分析では、健康・教育を基盤に、地域・連携へ広がる傾向が見られる。
- この傾向は、本学のスポーツ関連実践が多面的な社会的価値を生み出していることを示している。

大体大スポーツSDGsの意義は、本学の実践を社会課題との関係から整理し、その価値を社会に伝わる形へ翻訳する点にある。本ページでは、ACTIONS掲載記事の分析を通じて、本学のスポーツ関連実践がどのような社会的価値に接続しているのかを確認する。

ACTIONS掲載記事を分析すると、掲載されている実践は、健康や教育に関わる領域への貢献が大きく、そこに本学の基盤的な特徴が表れていることが確認できる。加えて、地域社会との関係づくりや、多様な主体との連携に関わる領域にも広がりがみられ、スポーツ関連実践が競技活動にとどまらず、社会との関係の中で多面的な価値を生み出していることが読み取れる。

すなわち、記事分析からは、ACTIONSに掲載された本学のスポーツ関連実践が、健康と教育を土台としながら、地域やパートナーシップへと価値を展開している傾向が見て取れる。この結果は、本学が発信しているスポーツ関連実践の社会的価値の特徴を示すものである。さらに、後半で示すクラブ活動の実践とそのSDGsへの貢献をあわせて捉えることで、本学の大学スポーツ、さらには本学全体のスポーツ関連活動の価値を、より総合的に理解することができる。



「大体大スポーツSDGs」ウェブサイト: <https://www.ouhs.jp/ouhs-athletics/ouhs-sdgs/>

このサイト内の「ACTIONS」記事は、大学が展開する教育、人材育成、研究、地域連携、社会課題への対応などであり、クラブ（運動部など）が主体的に展開している地域・社会活動の掲載は少ない。2024年度に掲載された記事は80件。掲載記事の内容は複数のSDGs目標に関連している。

5. 大体大・大学スポーツエコシステム

— 学生中心！大学スポーツの価値を社会的価値へ高める運用システム —

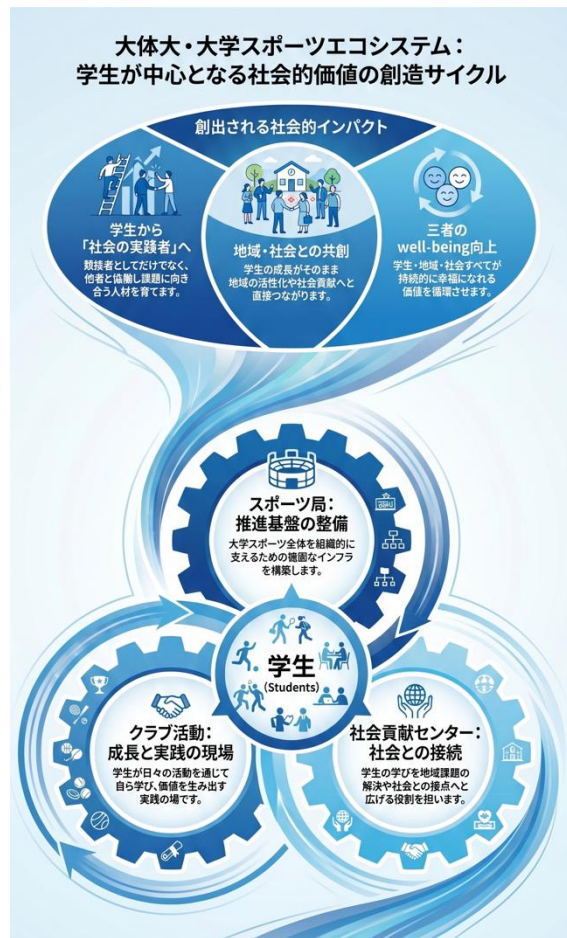
【ポイント】

- 本学の社会的価値の中心には、学生の学びと実践がある。
- スポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターが、学生の成長と社会接続を支える。
- その循環が、社会的価値と大学価値を高め、well-beingへとつながる。

大体大・大学スポーツエコシステムは、学生を社会的価値の中心に置き、その学びと実践を組織的に支え、地域や社会へ接続する運用システムである。大阪体育大学の特徴は、大学スポーツの価値を理念や活動紹介にとどめず、継続的な社会的価値へ高めていく点にある。本レポートでは、その中核を担う機能として、スポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターの連動を捉える。スポーツ局は推進基盤を整え、クラブ活動は学生が成長し価値を生み出す現場となり、社会貢献センターはその学びと実践を地域や社会へ広げる役割を担う。

この三つの機能が連動することで、学生は競技者であるだけでなく、地域や社会と関わる実践者として育っていく。学生は多様な実践を通じて、他者と協働し、課題に向き合い、自らの学びを社会的価値へ転換していく。その成長は、地域との共創や社会への貢献へと広がる。

このエコシステムにより、学生の成長は地域との共創や社会への貢献へ広がり、その社会的価値は本学の教育・研究・社会貢献の価値向上、そして学生・地域・社会のwell-beingへとつながっていく。この循環は、共有価値の創造(CSV)の視点からも捉えることができる。ここに、大学スポーツの価値を個別活動の集合ではなく、大学全体の社会的価値として束ね、多様な主体との協働・共創へ接続できる本学の独自性がある。



Ⅲ. 大体大・大学スポーツエコシステムが生み出す社会的価値

1. 本レポートにおけるインパクトの捉え方
2. 大体大スポーツエコシステムのインパクト・サマリー（2024年度）
 - ① 社会貢献センターの取り組み
 - ② スポーツ局の取り組み
 - ③ クラブ活動の取り組み
3. 本レポートが明らかにしたこと / 今後の課題と展望



1. 本レポートにおけるインパクトの捉え方

本レポートにおけるインパクトとは、本学の大学スポーツに関わる実践が、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を通じて、学生・地域・社会にどのような価値と変化を生み出しているかを示すものである。活動件数や参加者数、実施日数などの数値は、インパクトを直接証明するものではないが、その実践が生み出している価値と変化を示し、インパクトを読み解くための根拠となる。SDGs目標との接続は、3つのインパクトがどの社会課題に接続しているかを示す補助的な評価軸として位置づける。

インパクト

01 学生の成長

学生が多様な実践機会の中で学び、役割を担い、社会と関わる力を育んでいくことへのインパクト。

関連SDGs

4 8 17

02 地域社会の課題解決と価値創造

地域住民、自治体、学校、企業、地域団体などとの連携を広げ、地域課題への応答と新たな社会的価値の創出につなげていくことへのインパクト。

関連SDGs

10 11 17

03 well-beingへの貢献

健康、学び、交流、共生につながる機会が創出され、学生・地域・社会のよりよい状態を支えていくことへのインパクト。

関連SDGs

3 4 10 11

2024事業・活動

社会貢献センター

- 事業数
- 運営学生数(延べ数)
- 運営指導者数(延べ数)
- 参加者数(延べ数)
- 活動日数(延べ数)
- 関連企業・団体・自治体(実数)
- SDGs目標との接続

スポーツ局

- 事業数
- 運営学生数(延べ数)
- 運営指導者数(延べ数)
- 参加者数(延べ数)
- 活動日数(延べ数)
- 関連企業・団体・自治体(実数)
- SDGs目標との接続

クラブ活動

- 事業実施クラブ数
- 事業数
- 運営学生数(延べ数)
- 運営指導者数(延べ数)
- 参加者数(延べ数)
- 活動日数(延べ数・クラブ別延べ数)
- 関連企業・団体・自治体(実数)
- マナーアップキャンペーン参画状況
- SDGs目標との接続

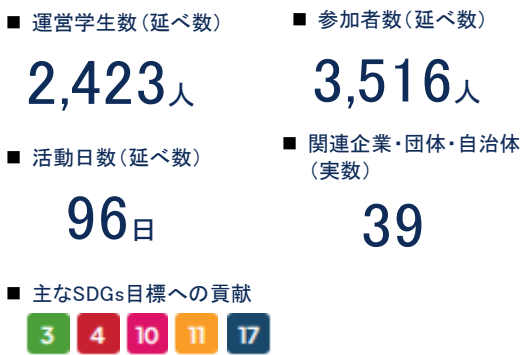
連携・学生参画

【 大体大・大学スポーツエコシステム 】

2. 大体大・大学スポーツエコシステムのインパクト・サマリー (2024年度)

本ページは、社会貢献センター、スポーツ局、クラブ活動の各ページで提示するインパクトを、エコシステム全体の視点から整理したサマリーである。三つの機能は相互に連動しながら、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を生み出している。以下の数値は、各機能の活動規模と接続領域を示す基礎データであり、その上で三つのインパクトを読み解くためのサマリーである。

① 社会貢献センター(15事業)2024年度



② スポーツ局(17事業)2024年度



③ クラブ活動(92事業)2024年度



※ 各数値は各機能の2024年度実績に基づく

【インパクト】

- 【学生の成長】 多くの学生が事業運営に参画し、主要な役割を担い、参加者や企業・団体・自治体と関わる力を育んだ。
- 【地域・社会の価値創造】 多くの参加者、企業、団体、自治体、学校などとの連携から、地域課題の解決に取り組むと共に、本学と地域社会の新たな社会的価値の創出につなげた。
- 【well-beingへの貢献】 多くの健康、学び、交流、共生につながる多様な機会を創出し、学生・地域・社会のよりよい状態の構築に貢献した。
- 【SDGs目標への貢献】 特に、「3:全ての人に健康と福祉を」「4:質の高い教育を」「10:人や国の不平等をなくそう」「11:住み続けられるまちづくりを」「17:パートナーシップで目標を達成しよう」のSDGs目標に強く接続している。

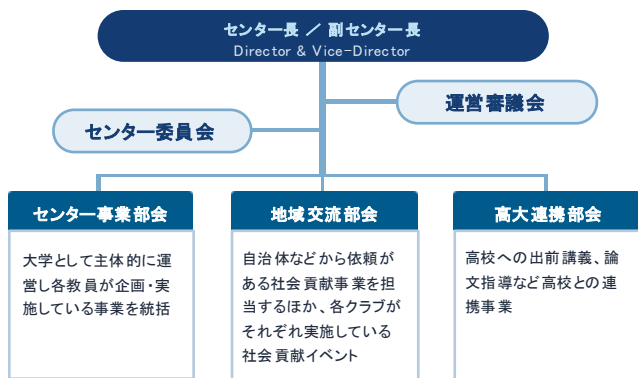
① 社会貢献センター

— 教育・研究・社会貢献を一体的に推進する、地域共創の中核拠点 —

社会貢献センターの歩みと使命

社会貢献センターは、開学以来の「社会体育・生産体育・学校体育」の理念を継承し、生涯スポーツ実践研究センターと健康福祉実践研究センターの統合を経て、2018年に発足した。教員・学生という人的資源と、施設・設備などの物的資源を社会と結び付け、行政、企業、学校、地域団体等との連携を通じて、スポーツ推進、学校教育支援、地域づくりを進めるとともに、教育・研究・社会貢献を一体的に推進する地域共創の拠点として機能している。

02 社会貢献センター 組織図 Organization Structure



社会貢献センターとは

- 大学のヒトとモノを社会とつなぎ、学生には学びの機会を、教員には研究成果の発信と研究データ収集の機会を創出する組織である。
- センターは「センター事業部会」「地域交流部会」「高大連携部会」の3部会から成る。
- 各部会は、大学主体の事業統括、自治体依頼・クラブの社会貢献活動、高校への出前講義や論文指導など、それぞれの役割で社会と連携している。

03 事業概要 / Activity Overview 年間の事業実績を4つの切り口で可視化

事業数

15 件

実施頻度(定期率)

100 %

定期実施
(全事業が継続実施)

実施形態



事業内容



実施地



04 活動実績・インパクト / Impact & Results 2024年度の主要指標(実施ベース)

運営学生数
(延べ数)

2,423人

運営指導者数
(延べ数)

239人

参加者数
(延べ数)

3,516人

活動日数
(延べ数)

96日

関連企業・団体・自治体
(実数)

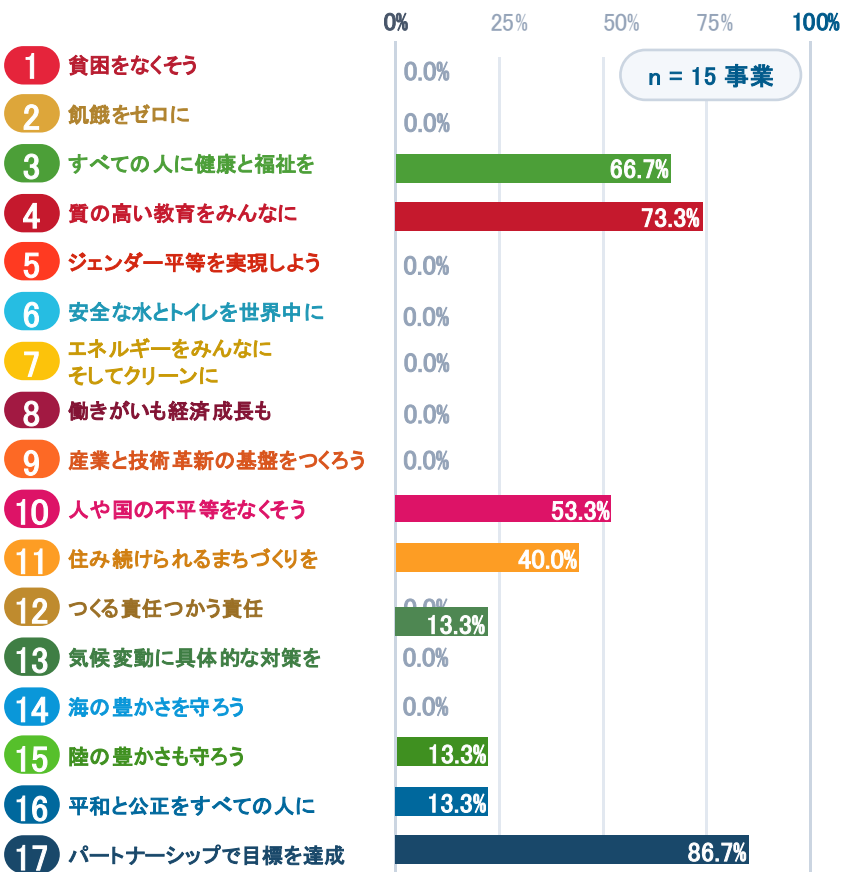
39

- ※ 参加者数(延べ人数) は、大型イベント派遣・協力(くまもりロードレース、西成区民体育レク等)を除いた数値。
 ※ 関連企業・団体・自治体 は、延べ66団体のうち重複を除く実数。

社会貢献センター事業によるスポーツSDGs目標への接続状況

- SDGs目標への接続状況は、社会貢献センターの事業が健康、教育、地域づくり、パートナーシップに広く接続していることを表す。
- 継続実施率の高さは、地域と安定的な関係を築きながら、地域共創の拠点として機能していることを表す。

01 社会貢献センターによるSDGs17目標への接続状況(全15事業)



02 社会貢献センター 事業リスト(全15事業)

活動名	実施形態	主催団体	実施場所	実施場所(詳細)	実施頻度	活動日数
めざせスポーツマスター	受託	泉大津市教育委員会	学外	大阪府	定期(年)	8
特別支援教育支援事業 アフタヌーン研修会	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	4
特別支援教育支援事業 教育講演会	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	1
教育出前講座プロジェクト	主催	大阪体育大学	学外	大阪府和歌山県	定期(年)	17
第35回くまとりロードレース	連携	熊取町	学内/外	大阪府	定期(年)	1
第17回サンライズキャンプ	主催	大阪体育大学	学外	福島県	定期(年)	4
OUHSスポーツキャンプ2025	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	1
能登半島地震災害支援活動	主催	大阪体育大学	学外	石川県	定期(年)	3
ウィンターキャンプ2025(2024年度)	主催	大阪体育大学	学外	大阪府	定期(年)	2
障がい体験授業	主催	大阪体育大学	学外	大阪府	定期(年)	9
第25・26期子ども運動教室	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	20
第68回西成区民体育レクリエーション大会	派遣	西成区役所	学外	大阪府	定期(年)	1
ニュースポーツフェス2025	連携	岸和田市教育委員会 岸和田市スポーツ推進委員協議会	学外	大阪府	定期(年)	1
キッズボーシャーズ	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	22
公益財団法人ライフスポーツ財団委託研究事業	受託	公益財団法人ライフスポーツ財団	学外	高知県	定期(年)	2



社会貢献センター事業：事例紹介①

キッズボーシャーズ

主催



本学主催：体育実技研究部 公益財団法人ライフスポーツ財団 運営

公益財団法人ライフスポーツ財団と大阪体育大学体育実技研究部が運営するスポーツクラブであり、子どもたちの心身の成長やスポーツ選択の機会を提供している。また、学生にとっては指導案作成や教室運営を通じた実践的な学びの場となっている。

SDGs



OUHSスポーツキャンプ

主催



本学主催：熊取町民の住民の方々が参加

大学の知的・人的・物的資源を地域に開放し、住民にスポーツの楽しさを知るきっかけを提供することが趣旨。本学教員10名と各種目クラブの学生75名が、熊取町近隣の小学生約80名を対象に指導を実施。

SDGs



ウィンターキャンプ2025

主催



本学主催：徳田ゼミ・野外活動部 レクリエーション受講者が参画

ひとり親家庭の子どもたちが直面する「体験格差」を解消し、野外活動を通じて社会性の育成や保護者の休息（レスパイト）を支援することが趣旨。公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）と連携し、徳田ゼミや野外活動部の学生14名が子ども28名をサポート。

SDGs



第25・26期子ども運動教室

主催



本学主催：本学学生有志157名 教職員参画 143名の子どもが参加

3～9歳の子どもを対象に、走る・投げる・跳ぶといった基本動作を習得し、運動への自信を育むとともに、障がいのある子どもと共に学ぶインクルーシブな環境を提供。延べ143名の子どもが参加。

SDGs



第17回サンライズキャンプ

主催



本学主催：福島県南相馬市に本学有志の学生を派遣

東日本大震災の被災地である福島県南相馬市にて、健康指導、環境整備、多世代交流を通じて地域コミュニティの再建を支援する活動。小学校での授業補助、地域スポーツ団体との交流会、高齢者の体力測定や運動指導、清掃活動などを実施した。

SDGs



特別支援教育支援事業 教育講演会

主催



本学主催：大阪府教育委員会 後援

「障害児・者の正しい理解と適切な支援を行うために」をテーマに、インクルーシブ教育等の最新情報を地域社会へ提供する大学の社会貢献事業。保護者、学校・福祉関係者、教員を目指す学生らを対象で大阪府教育委員会が後援。

SDGs



社会貢献センター事業：事例紹介②

能登半島地震災害支援活動

主催



本学主催：公益財団法人日本財団助成事業 40名の学生が参画

被災地の物理的整備に加え、遊びを通じた子どもの心のケアや高齢者の健康維持を多角的に支援することが趣旨。日本財団（助成）や輪島市・七尾市の社会福祉協議会、のど復興ラボと連携し、中山センター長らと学生40名が活動。



特別支援教育支援事業 アフタヌーン研修会

主催



本学主催：藤原彰子 土田幸男 藤井茂樹 曾根裕二が参画

特別支援教育に携わる本学卒業生や、地域の特別支援学校・学級、通常学級で支援が必要な子どもの担任を務める教員等のスキルアップを趣旨としている。学内講師を招き、4回の研修を実施した。合計123名が参加した。



教育出前講座プロジェクト

主催



本学主催：蛸谷みさ 藤井茂樹 岡崎均 栗田昇平 吉田雅子 藤原彰子

大学の専門的な知見を学校現場に直接還元し、教育実践研究の支援と大学の社会的な信頼向上を図る活動。教育学部の教員6名が講師となり、大阪府・和歌山県の計379校におよぶ小・中・特別支援学校を対象に講座を実施。



障がい体験講座

主催



本学主催：横井准教授 ゼミ学生が参画

福祉教育の一環として車いすやアイマスク体験を提供し、障がいへの理解とバリアフリーの視点を養うことが趣旨。熊取町内の全5つの小学校と連携し、教職員と学生ボランティアが3～5年生の児童を対象に授業を実施。



めざせスポーツマスター

主催



泉大津市教育委員会主催：本学教職員 学生 堺プレイザーズが参画

運動に自信がない子どもも含めて、生涯にわたってスポーツに親しむ資質である「フィジカルリテラシー」を育むことが趣旨。泉大津市教育委員会との連携事業であり、指導協力として堺プレイザーズも参画している。



公益財団法人ライフスポーツ財団委託研究事業

主催



本学主催：大阪府教育委員会 後援

高知県土佐町におけるスポーツ体験格差の解消を目的に、本学の学生を派遣し、地域の子どもたちへスポーツプログラムを提供した。活動は、ライフスポーツ財団の助成のもと、高知県スポーツコミッションや土佐町スポーツコミッション、龍馬学園と連携して実施した



社会貢献センター事業：事例紹介③

ニュースポーツフェス2025

連携



岸和田市主催：公益財団法人ライフスポーツ財団後援

全世代が楽しめるニュースポーツを通じて、市民がスポーツを開始するきっかけ作りが趣旨。岸和田市教育委員会やスポーツ推進委員協議会と連携し、金子教授と学生22名が約120名の岸和田市民の運営を補助を行った。

SDGs



第35回熊取ロードレース

連携



熊取町主催：陸上競技部部員 教職員が協力

地域の伝統的なマラソン大会を運営面から支え、住民の健康増進に寄与することが趣旨。熊取町の実行委員会に参画し、中山センター長と陸上競技部の部員12名が運営に従事。

SDGs



第68回西成区民体育レクリエーション大会

派遣



西成区役所主催：池島教授 ゼミ学生を派遣

地区対抗の運動会を通じて、区民の健康増進と地域コミュニティの活性化を図る活動。西成区役所やコミュニティ協会と連携し、池島教授が審判長、学生20名が審判員として西成区民の活動のサポートを行なった。

SDGs



② スポーツ局

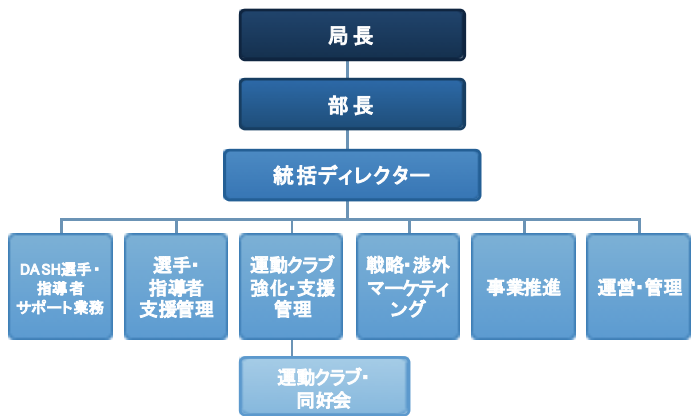
— 大学スポーツを支え、社会的価値創造を推進する中核基盤 —

スポーツ局の歩みと使命

スポーツ局は、本学が有するスポーツに関する教育・研究機能を活用し、学生スポーツの競技力向上、人材育成・教育、学内外におけるスポーツ振興を総合的に支えるため、2018年4月1日に設置された。運動クラブの統括、学生アスリートの修学・キャリア・生活支援、指導者・スタッフ支援、広報・ブランディング、卒業生や外部機関との連携、地域社会の健康増進やスポーツ振興に資する事業の企画・推進などを担い、本学の大学スポーツ振興・推進の中核として機能している。

02 スポーツ局 組織図

Organization Structure



スポーツ局とは

- 競技活動と人材を社会とつなぎ、学生には競技力向上と社会経験を両立する学びの機会を、教員には実践的な研究の場とデータ収集の機会を創出する組織である。
- 大学主体の競技力強化とブランディング推進、自治体・地域からの要請に応じたクラブの社会貢献活動、それぞれの役割で社会と連携している。

03 活動概要 / Activity Overview

年間の事業実績を4つの切り口で可視化

事業数

17 件

実施頻度(定期率)

70.6%

実施形態



- 受託: 88.2%
- 主催: 11.8%

事業内容



- 競技運営・講習: 64.7%
- 地域交流・連携: 17.6%
- スポーツ教室: 11.8%
- 子ども支援: 5.9%

実施地



- 大阪府: 70.6%
- 高知県: 17.6%
- 滋賀県: 5.9%
- オンライン: 5.9%

04 活動実績・インパクト / Impact & Results

2024年度の主要指標(実施ベース)

参加者数
(延べ数)

2,264人

運営学生数
(延べ数)

324人

運営指導者
(延べ数)

41人

活動日数
(延べ数)

87日

関連企業・団体・自治体
(実数)

39

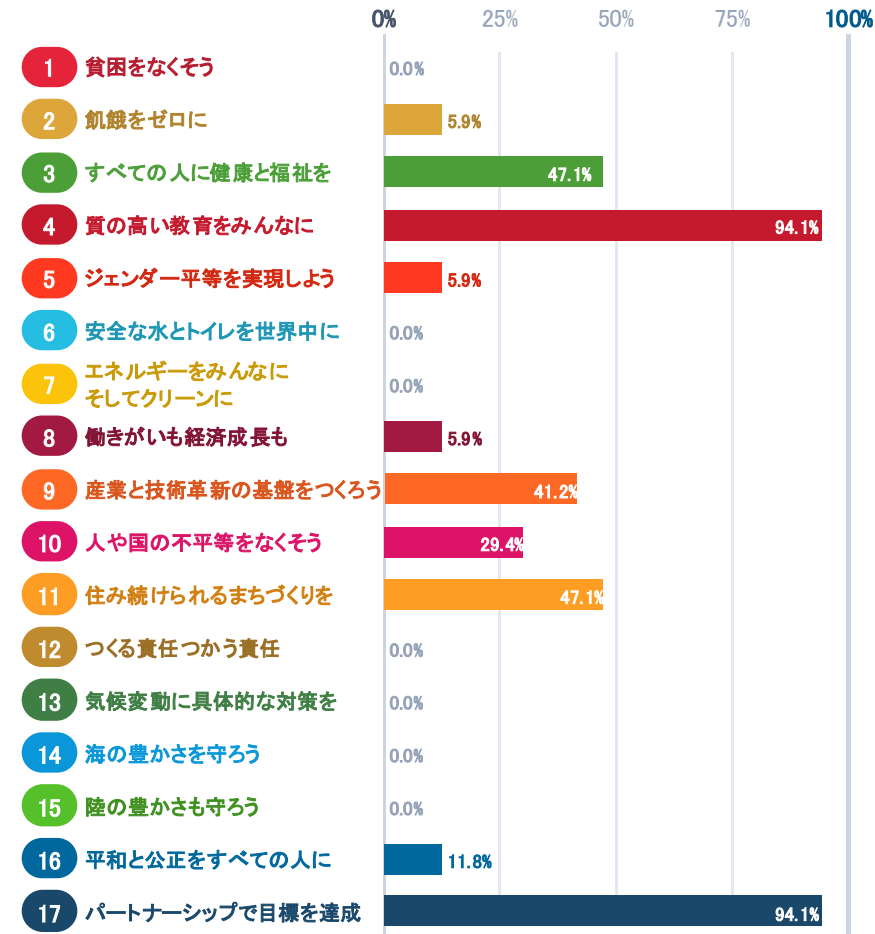
※ 参加者数(延べ数) は、受託・主催の全17事業の合計。

※ 関連企業・団体・自治体 は、延べ44団体のうち重複を除く実数。

スポーツ局事業によるスポーツSDGs目標への接続状況と事業一覧

- SDGs目標への接続状況は、スポーツ局の事業が教育、人材育成、パートナーシップの領域に強く接続していることを表す。
- 少数事業でも高い専門性と連携性を持つ点は、大学スポーツ振興・推進を支える中核基盤としての特徴を表す。

01 スポーツ局によるSDGs17目標への接続状況(全17事業)



02 スポーツ局 事業リスト(全17事業)

活動名	実施形態	主催団体	実施場所	実施場所(詳細)	実施頻度	活動日数
スポーツ局指導者講習会	主催	スポーツ局	学内	大阪府	定期(年)	1
フレンドリーマッチ2024	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	1
スポーツサイエンス実習	受託	桜宮高等学校	学内	大阪府	定期(年)	2
あしゆびプロジェクト	受託	泉大津市健康こども部	学外	大阪府	定期(年)	14
スポーツ科学サポート	受託	関西スポーツ医科学サポートコンソーシアム	学内	大阪府	定期(年)	1
くろしおキッズ合宿	受託	高知県スポーツコミッション	学内	大阪府	定期(年)	3
競技力向上支援(バスケットボール)	受託	高知県スポーツコミッション	学内	大阪府	定期(年)	1
指導者講習	受託	びわ湖東北部地域連絡協議会	学外	滋賀県	定期(年)	3
競技力向上支援(バレーボール)	受託	高知県スポーツコミッション	学内	大阪府	不定期	1
宿泊研修	受託	岡豊高等学校	学内	大阪府	不定期	2
フレイル予防マスター講座	受託	熊取町健康いきいき高齢課	学外	大阪府	定期(年)	3
ゴールデンキッズプログラム	受託	和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト実行委員会	学内	大阪府	定期(年)	1
ICTを活用した部活動支援	受託	高知県スポーツコミッション	オンライン	オンライン	不定期	1
指導者講習	受託	高知県教育委員会	学外	高知県	不定期	1
指導者派遣	受託	熊取町教育委員会	学外	大阪府	定期(年)	50
パラスポーツ交流会	受託	高知県観光振興スポーツ部	学外	高知県	不定期	1
指導者講習	受託	高知県観光振興スポーツ部	学外	高知県	定期(年)	1



スポーツ局事業：事例①

スポーツ局指導者講習会

主催



本学主催：スポーツ局 / 協力：宮林常崇氏（東京都立大学法人）

学内クラブの指導者を対象に、「アカデミックハラスメント防止対策とケーススタディ」をテーマとした講習会をスポーツ局が主催。延べ40名が参加。



フレンドリーマッチ2024

主催



本学主催：大阪体育大学 / 協力：武庫川女子大学

2017年から続く武庫川女子大学との交流試合を、学生が中心となり企画・運営。大学スポーツを「みる」「ささえる」文化の醸成をめざす。延べ613名が来場・参加。



スポーツサイエンス実習

受託



桜宮高等学校主催：桜宮高等学校の高校生が参加

高校生を対象に、大学の専門的な設備を活用した体力測定や講義などを通じてスポーツ科学への理解を深める1泊2日の実習を実施。延べ76名が参加。



あしゆびプロジェクト

受託



泉大津市健康こども部主催：市内保育所・こども園等の園児が参加

泉大津市が推進する「あしゆびプロジェクト」の効果検証を担当し、市内保育所・こども園等7園の年長児を対象に、足指の発達状況を測定し運動能力向上につなげる。延べ111名が参加。



スポーツ科学サポート

受託



関西スポーツ医・科学サポートコンソーシアム主催：ジュニア世代対象

関西スポーツ医・科学サポートコンソーシアムの一員として、科学的根拠に基づく測定・評価を通じ、将来のトップアスリート輩出も見据えたジュニア世代の有望選手の競技力向上を支援。



くろしおキッズ合宿

受託



高知県スポーツコミッション主催：高知県のジュニアアスリートが参加

高知県のジュニアアスリート発掘・育成事業を受託し、小学6年生を対象に、大学の専門性を活かしたアダプテッド・スポーツやハンドボール体験、スポーツ心理学等の講義を行う合宿を実施。延べ51名が参加



スポーツ局事業：事例②

競技力向上支援（バスケットボール・バレーボール）

受託



高知県スポーツコミッション主催：本学教員が講師として参画

国民スポーツ大会での活躍を見据え、高知県内の競技者・指導者を対象に、試合映像分析による書面フィードバックとオンライン面談で競技力・指導力向上を支援。延べ13～15名が参加。

SDGs



パラスポーツ交流会

受託



高知県観光振興スポーツ部主催：アダプテッド・スポーツ部が参画

障がい者スポーツの普及を目的とした高知県との連携協定に基づき、本学アダプテッド・スポーツ部の学生が他大学生と協働してニュースポーツを考案し、地域住民との交流会を運営。延べ20名が参加。

SDGs



指導者講習

受託



びわ湖東北部地域連絡協議会主催：本学教員が講師として参画

中学校部活動の地域移行を見据え、聖泉大学・びわ湖東北部地域連絡協議会と連携し指導者育成プログラムを実施。地域の部活動指導体制の整備に貢献した

SDGs



高校生(体育科)宿泊研修

受託



岡豊高等学校主催：岡豊高等学校生延べ32名が参加

高校の体育科1年生を対象に、大学施設を活用し、スポーツへの理解を深める1泊2日の宿泊研修を実施。延べ64名が参加。

SDGs



フレイル予防マスター講座

受託



熊取町健康・いきいき高齢課主催：本学教職員が講師として参画

熊取町が取り組む高齢者のフレイル予防を支援するボランティア人材育成に、三人の専門教員を講師として派遣。延べ60名が参加。

SDGs



ゴールデンキッズプログラム

受託



和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト実行委員会主催：

世界で活躍する選手の輩出を目指す和歌山県のトップアスリート発掘・育成事業を支援し、小5～中3の選抜生を対象に意識向上を図る合宿プログラムを実施。延べ65名が参加。

SDGs



スポーツ局事業：事例③

ICTを活用した部活動支援

受託



高知県スポーツコミッション主催：本学職員が講師として参画

高知県内の中高生を対象に、スポーツ栄養学の講義をICTを活用しオンラインで実施し、生徒の意欲・競技力向上を支援。延べ30名が参加。



高知県運動部活動指導者講習

受託



高知県教育委員会主催：本学教員が講師として参画

平成30年度から続く高知県の運動部活動指導員配置事業を支援し、指導環境整備と教員負担軽減を目的とした指導員向け講習を実施。延べ30名が参加。



指導者派遣

受託



熊取町教育委員会主催：クラブ所属学生延べ250名が参画

熊取町立中学校の部活動に本学運動クラブ所属学生を指導者として派遣し、技術指導や安全管理、用具・施設管理等、クラブ顧問の補助業務を支援。延べ250名を派遣。



高知県運動部活動指導員講習

受託



高知県観光振興スポーツ部主催：本学教員が講師として参画

高知県内の部活動指導員を対象に、安心して活動できる環境づくりへ向け、ハラスメント対策やアスリートのメンタルケアをテーマとした講習を実施。延べ30名が参加。



③ クラブ活動

— 学生の成長と社会的価値を生み出す実践現場 —

クラブ活動の歩みと使命

クラブ活動は、52クラブ(4同好会含む、男女別)、所属部員数2,040人(所属率73.7%)を擁する本学の大学スポーツの中核的な実践基盤であり、大学が開学した1965年に創部のクラブも多い。学生が競技活動を通じて成長すると同時に、地域や社会と関わる力を育む現場である。競技力の面でも、たとえば女子ハンドボール部は全日本学生選手権12連覇、男子サッカー部は関西学生サッカーリーグ1部優勝、女子剣道部は関西女子学生剣道優勝大会優勝、陸上競技部は日本学生個人選手権男子400m優勝 などの実績を有している。こうした競技実績を基盤としながら、クラブ活動は地域連携や社会貢献へも実践を広げ、大学スポーツの価値を社会的価値へつなげる役割を担っている。

01 活動概要 / Activity Overview

52クラブ・同好会(38種目・種類)

事業数 / Total

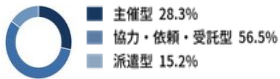
92 件

実施頻度(定期率)

69.6 %

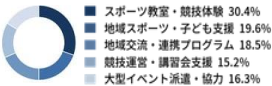
実施形態

/ 事業の実施区分



事業内容

/ 活動カテゴリー of 分類



実施場所

/ 都道府県別



02 活動実績・インパクト

/ Impact & Results

運営学生数(延べ数)

12,697 人

運営指導者数(延べ数)

1,357 人

参加者数(延べ数)

40,587 人

活動日数(延べ数)

1,095 日

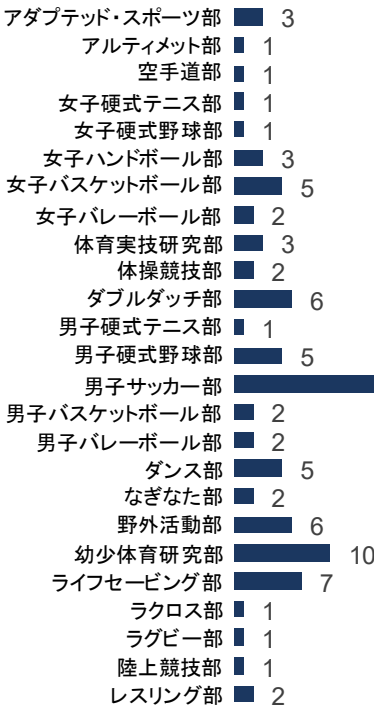
関連企業・団体・自治体(実数)

124 団体

※ 参加者数(延べ人数)は大型イベント派遣・協力を除いた数値。
※ 関連企業・団体・自治体は延べ142団体のうち重複を除く実数。

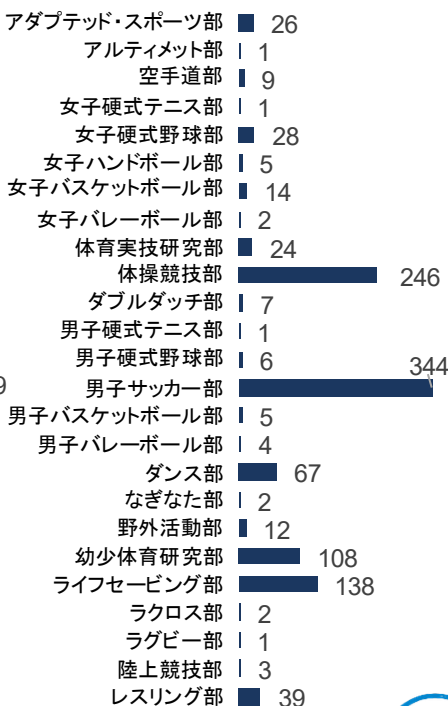
クラブ別 事業数

/ 多い順(全25クラブ)・単位:件



クラブ別 活動日数

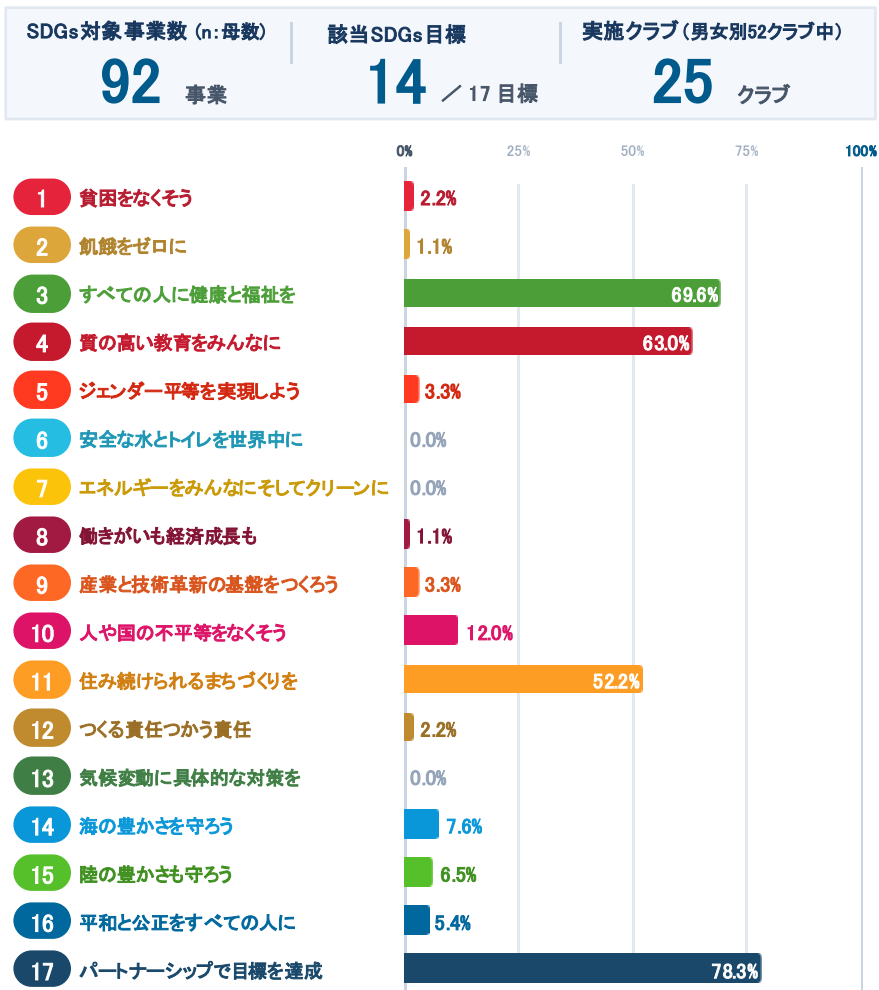
/ 多い順(全25クラブ)・単位:日



クラブが取り組む社会的活動のスポーツSDGs目標への接続状況とマナーアップキャンペーン

- SDGs目標への接続状況は、クラブ活動が健康、教育、地域づくり、パートナーシップを中心に多面的な社会的価値を生み出していることを表す。
- マナーアップキャンペーンへの高い参加率は、クラブ活動が地域の安全や共生を支える日常的な社会実践としても機能していることを表す。

01 クラブ活動によるSDGs 17目標への接続状況



02 クラブが参画するマナーアップキャンペーン (主管:学友会)

活動概要 / Overview

交通事故防止と安全意識の向上、地域社会との連携を目的として、地域貢献活動「マナーアップキャンペーン」を毎年実施している。2024年度は前期(5/24, 6/4, 6/13, 6/24, 7/3)、後期(9/30, 10/9, 10/24, 11/5, 11/22) 各5日間、学友会を中心にクラブ生や教職員が大学周辺の交差点や通学路に立ち、登校中の学生へ一時停止や信号遵守、歩行者優先といった基本マナーの徹底を呼びかけ、地域の安全な環境づくりに取り組んでいる。



年間総参加者数(延べ数)

520 人

参加学生数(クラブ・同好会)

クラブ生: 414人 | 同好会生: 16人

430 人

参加職員数(延べ数)

90 人

参加団体 / 実数

29 団体

※ 団体=クラブ・同好会の内、男女共同・一体とした単位(=種目)

部活動 28 / 同好会 1

学友会団体 参加率

76.3 %

参加 29団体 / 母数 38団体

※ 52クラブ・同好会の内、男女共同・一体として38団体(=種目)としている。

指導者&部員インタビュー

社会的活動に取り組む理由と経験価値

男子サッカー一部 — 地域から応援されるチームを目指して —

※ インタビュー:2024年11月～12月

【理念】

- 「学生としての本分」をわきまえ、体育・スポーツを追求し、そのメカニズムを探り知的理解を高める。選手として、サッカーを通して「技術・戦術・体力を高める」ことは勿論、「指導法の習得」、「審判技術の向上」にも努める。
- 単に、スポーツ愛好家・サッカー愛好家の集団ではない。集団生活を通し、真の友人たちとの切磋琢磨の中で「人間性・社会性」を高め、社会に有用な人材の輩出を目指す。



松尾元太 監督（専任講師）

① 地域から応援されるチームをつくるためです！

地域貢献そのものが目的ではありません。目指しているのは、地域から応援されるチーム、応援される学生となること。地域と大学が互いに協力し、地域の方には『熊取に大阪体育大学があってよかった』、学生には『熊取にある大阪体育大学で学んでよかった』と思ってもらえる関係を大切にしています。

② 教育的価値と地域価値を両立させるためです！

活動は、学生にとって教育的な価値があるか、地域にとっても価値があるか、という二つの軸で実施の可否を判断します。そして、これらの活動を学生と共に継続していくことが、その価値を創り、高めていくことに繋がります。

③ 活動数より既存活動の質を高めることが大事！

今後は活動を増やすことより、今ある活動の質を高めることを最優先にします。長く続く活動ほど『行かされている』という感覚になりかねません。毎年きちんと振り返り、改善し、次の学年へ引き継ぐ必要があります。

部員Aさん（選手、4年生）

① 子どもを第一に考えた指導が応援される部に！

地域から応援されるチームという目的はあっても、指導の場で『応援してください』を前面に出すのは違うと思っています。目の前にいるのは地域の子供たちで、まずその子たちの技術向上や成長を大切にしたい。その積み重ねの先にこそ応援される関係が生まれます。

② 与えられた場の中で学生が主体的に動く！

活動の機会や枠組みは指導者や外部の方が用意して下さることが多いです。ただ、その中でどう指導するか、後輩へどう引き継ぐかは、自分たちで考え、任された範囲では主体的に行動することを意識しています。

③ 指導技術と社会人としての関わり方を学んだ！

指導がうまくいくこともあれば失敗することもあります。大人のスタッフから教わったことを次の指導で試せるので、技術を実践的に身につけられました。子どもや保護者、外部スタッフとのやり取りを通して、話し方や配慮も学びました。

女子バスケットボール部

— 自分たちから動く、地域とのかかわり —

※ インタビュー:2024年11月～12月

【理念】

- 60年の礎に感謝し、更なる進化を目指しチャレンジする
- 何事にも一生懸命取り組み、その努力に誇りを持てる
- 日本一のチームを目指す



村上なおみ 監督（専任講師）

部員Bさん（主務、4年生）

① 自己成長と大学・クラブの価値発信につながる！

地域社会のための活動を通して、大体大や女子バスケットボール部のことを知ってもらいたい。同時に、自分たちが周囲からどう見られているかを感じてほしい。普段学んでいることを外に伝えることで、自分自身の課題にも気づき、次の成長につなげてほしいです。

① 地域社会のために主体性を持って活動する機会！

女子バスケットボール部では主体性を大切にしています。クリニックではコーチや学生と一緒に内容を考え、災害ボランティアでも現場で自分たちが何をすべきかを考えて動きました。ただ参加するのではなく、自分で考えて行動することが大切です。

② お世話になった地域へ、主体的に行動する機会に！

災害ボランティアは、毎年合宿でお世話になっている地域が被災したことがきっかけでした。困っていると聞いて、何かできないかと役場に問い合わせました。依頼されたのではなく、自分たちから動いた活動です。学生にも、そのような姿勢を持ってほしいと思っています。

② 支える側を経験し、感謝を知る機会に！

車いすバスケットボール大会のボランティアでは、舞台裏でどのような人がどのような仕事をしているのかを知ることができました。普段は支えてもらう側ですが、実際に支える側を経験したことで、自分たちの大会も多くの人のおかげで成り立っていると分かりました。

③ 単発の活動から持続可能な活動に！

今は単発で終わる活動が多く、せっかくの経験やつながりが途切れることがもったいない。クリニックを定期的に行い、企画や運営、役割分担、資金管理まで経験できる仕組みをつくりたい。数年かけて、社会に出る前の実践的な学びの場を整えたいと考えています。

③ 競技中とは異なる仲間の力に気づく！

クリニックやボランティアでは、普段の練習や試合では見えない一面が見えます。いつも前に出ない人が子どもへの指導では積極的に話したり、自然に中心になったりします。活動を通して、仲間の新しい強みを知ることができました。

女子ハンドボール部 — 競技の普及と学生の学びを同時に生み出す —

※ インタビュー:2024年11月～12月

- 【理念】
- 大体大らしさの根底にあるのは「Try our Best」の精神。
 - 部訓であるその言葉の真意を理解する教育を！



楠本繁生 監督（教授/2024年時）

① 競技普及の活動を、学生自身の学びの場に！

現在の活動の多くは競技性というより、ハンドボールの普及や指導交流が中心です。大学の外にいる様々な人と関わることで、学生自身が学ばせてもらっています。競技力の強化だけでなく、社会との接点を持つことが人間的な成長につながると考えています。

② 学生自身に考えさせ、現場で対応する力を！

活動の機会や大枠はこちらでつくりますが、実際のメニューや教え方は学生が考えます。参加者の年齢や技術レベルを見て言葉や進め方を判断する。想定より基本ができていなければ、その場で内容を変える。大きな目標だけ示し、終わった後に振り返ります。

③ 大学の施設と競技力を地域に開き、還元する！

ハンドボールは専用コートが必要なため、体験できる機会が少ない。大体大の専用体育館やコートを地域に開き、まずはハンドボールに触れてほしい。将来的には大学、日本リーグ、地域企業、自治体をつなぎ、競技の普及と学生の学びを同時に生み出す活動へ広げたい。

部員Cさん（選手、4年生）

① 大体大のハンドボールを伝えたい！

活動の目的はハンドボールを広めることです。同時に、大体大女子ハンドボール部がどのような活動やプレーをしているのかを、高校生や他校の選手に伝えたい。技術だけでなく大体大のハンドボールの魅力や特徴を知ってもらうことを大切にしています。

② 練習内容や説明を学生主体で考える機会！

活動全体の企画は先生方が行ってくださいますが、実際にどのような練習をするのか、どこをポイントとして説明するのかは、学生が中心になって考えます。うまく説明できない部分は先生が補足してくださいますが、自ら考えて伝える経験ができています。

③ 分かっていることを言葉にする難しさを学んだ！

自分では分かっているつもりでも、人に言葉で伝えることは難しいと感じました。特に小学生にたいしては表現や見せ方を工夫する必要があります。最後のゲームで練習した内容が少しでもできていた時には、自分の説明が伝わったのかなと感じました。

※ 楠本繁生教授は、2026年2月から日本ハンドボールリーグ所属ブルーサクヤ鹿児島監督に就任

野外活動部

— 自然体験を通じて人と地域をつなぎ、学びの場を広げる —

※ インタビュー:2024年11月～12月

【理念】 ■ 自然を愛し、自然を利用し、形式ばることなく、自然に対し自己を鍛え楽しむ。



徳田真彦 コーチ（准教授）

① 学生が身につけた力を社会へ還元するために！

学生には、キャンプや野外活動で身につけた力を、自分たちの中だけにとどめないでほしい。自然の中で学んだ技術は、地域や子どもたちのためにも役立つ力です。それを発揮することで学生自身もさらに成長できます。

② 学生の成長に応じて経験値を高める機会に！

熊取町教育委員会とのキャンプでは、募集は教育委員会が行い、プログラムづくりや当日の運営は学生が中心になります。最初からすべて任せず、経験を積みば任せる範囲を広げる。少し失敗しそうでも、まずやってみなさいと言えることが大切だと考えています。

③ 長く続く事業だからこそ、地域と共に、地域のために！

熊取町教育委員会とのキャンプは25年以上続いています。『毎年やっているから今年もお願いします』になりやすい。だから毎年、なぜこのキャンプを行うのか、教育委員会が何を実現したいのかを確認しています。地域と共に、地域のために継続することを大切にしています。

部員Dさん（3年生）

① 振り返りを通して次の活動に生かす力に！

キャンプが終わった後にはミーティングをして、良かった点や改善した方がよい点を話し合います。活動をして終わるのではなく、振り返ったことを次のキャンプに生かすようにしています。行動を見直し、改善していく力が身についたと思います。

② 先を読んで行動する力が身についた！

キャンプでは天候が変わったらどうするか、事故が起きそうな時はどう対応するかなど、いろいろなことを事前に考える必要があります。最悪の場合まで想定しながら準備する経験を重ねたことで、日常生活でも少し先を見て行動できるようになりました。

③ より多くの場所と人へ活動を広げたい！

今は同じ場所でキャンプを行うことが多いです。その場所に詳しくなれることは良いのですが、違う場所や自然環境でもキャンプをしてみたい。部員が増えれば、参加できる子どもの人数も増やし、より多くの人に自然体験を届けられると思います。

クラブ活動による主な事業リスト（全92事業から25クラブ・25事業を抜粋）

- このリストは、クラブ活動が特定の競技や単発イベントに限られず、多様な種目・場所・頻度で社会と接続していることを表す。
- 学内外で継続的かつ多様な実践は、クラブ活動が学生の成長の場であると同時に、地域社会に価値を還元する基盤でもあることを表す。

No.	クラブ名	イベント名	実施形態	実施場所	実施場所(詳細)	実施頻度	活動日数
1	アダプテッド・スポーツ部	わくわくアダプテッド・スポーツクラブ	主催	学内	大阪府	定期(月)	24
2	アルティメット部	高知県パスウェイシステム事業高知くろしおキッズ	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(年)	1
3	空手道部	合宿	主催	学内	大阪府	定期(年)	9
4	女子硬式テニス部	和歌山ゴールデンキッズ・大体大トレーニング合宿プログラム	協力・依頼・受託	学内	大阪府	不定期(年)	1
5	女子硬式野球部	野球教室	主催	学外	大阪府	定期(月)	28
6	女子ハンドボール部	第2回ハンドボールキャンプin大体大	主催	学内	大阪府	不定期(年)	2
7	女子バスケットボール部	ネクストリーグ	主催	学内外	大阪府、滋賀県	定期(年)	3
8	女子バレーボール部	バレー教室2024	協力・依頼・受託	学内	大阪府	不定期(年)	1
9	体育実技研究部	ゴーイング	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(年)	1
10	体操競技部	体操教室	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(週)	245
11	ダブルダッチ部	貝塚市役所	協力・依頼・受託	学外	大阪府	不定期(年)	2
12	男子硬式テニス部	大阪府車いすテニス強化練習会及び指導講習会	主催	学内	大阪府	定期(年)	1
13	男子硬式野球部	野球教室	主催	学内	大阪府	定期(年)	1
14	男子サッカー部	サッカースクール(泉佐野)	派遣	学外	大阪府	定期(週)	96
15	男子バスケットボール部	バスケットボール教室	協力・依頼・受託	学外	岐阜県	定期(年)	4
16	男子バレーボール部	大阪体育大学CUP	主催	学内	大阪府	定期(年)	3
17	ダンス部	ダンスプレイス	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(月)	24
18	なぎなた部	熊取武道祭	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(年)	1
19	野外活動部	棚田子育てフェス	協力・依頼・受託	学外	兵庫県	定期(年)	2
20	幼少体育研究部	とれぞあ保育園幼児体育教室(泉大津市)	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(週)	38
21	ライフセービング部	臨海実習(大阪体育大学)	派遣	学外	和歌山県	定期(年)	5
22	ラクロス部	上海のラクロス部と交流	協力・依頼・受託	学内	大阪府	不定期(年)	2
23	ラグビー部	寄付活動	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(年)	1
24	陸上競技部	かけっこ教室	派遣	学外	兵庫県	定期(年)	3
25	レスリング部	ゼッセル熊取レスリングスクール	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(週)	35

※ 2024年度に社会的活動を実施した25種目のクラブを掲載(同種目の男女クラブは統合して表示、五十音順)

クラブ活動事業：事例紹介①

アダプテッド・スポーツ部

事業3件



わくわくアダプテッド・スポーツクラブ、パラスポーツ交流会 等

共生社会の実現に向けて、全ての人がスポーツを楽しめる実践力を身につけることを理念に掲げている。社会貢献活動として地域の障がいのある人を対象にした「アダプテッド・スポーツ体験会」を自治体と受託運営。年齢や障害を問わず、誰もが一緒に笑顔になれる運動教室を実践している。



女子ハンドボール部

事業3件



ハンドボールキャンプ in 大体大、高知ろしおキッズ大阪体育大学合宿 等

部訓である「Try our Best(最善を尽くす)」の真意を理解する教育を行うことを理念に掲げている。社会貢献活動として地域の小中学生ハンドボールチームを対象とした「技術指導・クリニック」を学内外で実施。最高のパフォーマンスを支える技術を惜しみなく子どもたちに伝えている。



女子バスケットボール部

事業5件



フレンドリーマッチ2024、ネクストリーグ、国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会 等

何事にも一生懸命取り組み、その努力に誇りを持てる日本一のチームを目指すことを理念に掲げている。社会貢献活動として能登半島地震の「災害ボランティア」に赴き、高齢者宅の片付けや復興支援に従事したほか、女子バスケの普及を図る「ネクストリーグ」の運営などを行っている。



女子バレーボール部

事業2件



バレーボール教室(えびの合宿)、バレーボール教室2024

自分と向き合い個性を生かす集団であることを理念に掲げている。社会貢献活動として地域の小学生を対象にした「バレー教室」を学内で開催。部員たちが個性を生かして子どもたちと主体的に関わり、バレーの技術や楽しさを伝えることで、チームの社会的価値を高める活動を行っている。



クラブ活動事業：事例紹介②

体操競技部

事業2件



体操教室、体操競技体験会

高みを目指した競技実践と深い理解を目指した研究活動を追求することを理念に掲げている。社会貢献活動として幼児から児童を対象とした「体操教室」を年間を通じて活発に運営。大学の設備や研究知見を生かし、子どもたちの運動能力に応じた丁寧な指導を行う地域貢献を実践している。

SDGs



野外活動部

事業6件



チャレンジカップ、家族ふれ愛講座、熊取びっこキャンプ、熊取サマーキャンプ 等

「自然を愛し、自然に対し自己を鍛え楽しむ」ことを理念に掲げている。社会貢献活動として地域の小学校低学年の児童を対象とした「サマーキャンプ」を1泊2日で共同開催。自然の家でのプログラム運営や野外調理のサポートを通じ、子どもたちに自然の魅力と自立して楽しむ大切さを伝えている。

SDGs



男子サッカー一部

事業19件



サッカースクール、グローバル交流会、地域清掃活動、シニア審判部活動、講演会 等

集団生活の中で人間性を高め、社会に有用な人材の輩出を目指すことを理念に掲げている。社会貢献活動として地域の幼児や小学生を対象とした「サッカースクール」の運営や、高校のサッカー部へ大学での学びや競技の意義を伝える「講演会」を実施し、地域の子ども支援に注力している。

SDGs



幼少体育研究部

事業10件



とれぞあ保育園幼児体育教室、「体を使って親子で遊ぼう」、子ども運動教室 等

子どもたちそれぞれに合った運動プログラムを考え、一緒に遊び楽しめる運動教室を運営している。社会貢献活動として運動が得意な子、苦手な子、障がいがある子を対象とした「子ども運動教室」を毎週主催。その指導成果を「子ども運動教室活動報告書」として毎期発行し社会へ発信している。

SDGs



クラブ活動事業：事例紹介③

アルティメット部

事業1件



高知くろしおキッズ大阪体育大学 高知くろしおキッズ

フェアプレーに対する責任感であるスピリット・オブ・ザ・ゲームを理念とする。小学校やイベントでの競技体験会を学外で実施している。セルフジャッジを体験してもらう概要であり、誠実な協調性の精神を伝えている。



空手道部

事業1件



GW合宿

空手道を通して心身共に鍛え上げることを理念に掲げている。小学生から一般の門下生までが参加する合同合宿を学内で実施している。武道で培った礼節を還元する概要であり、地域社会の健全な心身の育成に貢献している。



女子硬式テニス部

事業1件



テニス競技体験

自立・自律したチームやアスリートになることを理念に掲げている。地域の中高校生テニス部員を対象とした合同練習会を学内で実施している。学生が主導して自律運営する概要であり、地域選手たちの技術向上を支援している ※写真は2020年度のものである



女子硬式野球部

事業1件



野球教室

考える力と感じる心、魅力を伝える力を養うことを理念に掲げている。女子選手や小中学生を対象とした野球教室を学外で実施している。現役選手が直接指導する概要であり、子どもたちの成長と競技の普及を後押ししている。



体育実技研究部

事業3件



キッズボーシャーズ、ゴーイング、スポーツ

将来のスポーツ指導者に必要な技術や知識を深め、人格を陶冶することを理念に掲げる。未就学児や小学生対象の体操教室を学内で実施している。指導理論を現場で実践する概要であり、良き指導者としての豊かな経験を積んでいる。



ダブルダッチ部

事業6件



レッドファミリー卒団式、佐野リニック、OZUリニック 等

世界大会優勝を目指し、構成や表現力を日々磨くことを理念に掲げる。商業施設や地域のフェスティバルでの体験会を学外で実施している。迫力ある技を披露する概要であり、認知拡大と地域の賑わい創出を担っている。



クラブ活動事業：事例紹介④

男子硬式テニス部

事業3件



大阪府車いすテニス強化練習会及び指導講習会

自律した行動と助け合う精神、周囲への感謝の心を大切にする理念を掲げる。中高生をコートに招く指導講習会を学内で実施している。仲間と協力してメニューを運営する概要であり、具体的な競技指導で貢献している。



男子硬式野球部

事業5件



野球教室、献血活動、高校野球大会サポート、かつとばし 等

野球を通して社会人基礎力やマナー、忍耐力を身に付けることを理念に掲げる。小学生を対象とした野球教室を学内で実施している。楽しさを直接伝える概要であり、技術の伝達とともに社会へ貢献できる力を養っている。



男子バスケットボール部

事業2件



バスケットボール教室

何事に対しても常に「一生懸命」に取り組むことを理念に掲げている。地域のミニバスチームや中学生へのクリニックを学外で実施している。ひたむきに向き合う概要であり、コート外でもスポーツの楽しさを伝えている。



男子バレーボール部

事業2件



バレーボール教室、大阪体育大学CUP

勝負への執念とあきらめない信念を持つアスリートの育成を理念に掲げる。小中学生を対象としたクリニックを学内で実施している。部員が直接指導にあたる概要であり、基本技術やチームプレーの魅力を熱心に伝えている。



ダンス部

事業5件



ルード・フェアリー、ダンスブレイス、とっておきの音楽祭inりんくう 等

ダンスは無限の可能性を創造するという信念を理念に掲げている。地域イベントでのパフォーマンスやワークショップを学外で実施している。表現の楽しさを届ける概要であり、ダンスが持つ多様な魅力を広げている。



なぎなた部

事業2件



熊取武道祭、OG交流恒薙杯

「日本一！得られるものも日本一！」という高い志を理念に掲げる。小中高校生を対象とした体験教室を学外で実施している。美しさと礼節を発信する概要であり、過酷な努力で得た豊かな精神力を地域に還元している。



クラブ活動事業：事例紹介⑤

ライフセービング部

事業7件



淡輪海水浴場ガード、白良浜海水浴場ガード、臨海実習 等

水辺の事故ゼロという尊い目標を理念に掲げている。救命講習会や海水浴場でのビーチパトロールを学外で実施している。高い専門知識と技術を生かす概要であり、人命救助の精神をもって社会の安全安心に貢献している。

SDGs



ラクロス部

事業1件



上海のラクロス部と交流

「Be the best」を目標に掲げ、日々努力を重ねることを理念とする。上海の大学を学内に招いた国際交流プログラムを実施している。合同練習や試合を行う概要であり、国内外における競技カルチャーの発展に尽力している。

SDGs



ラグビー部

事業1件



寄付活動

感謝と期待を忘れず、常に全力で挑戦する集団であることを理念に掲げる。子どもたちを集めたラグビーフェスティバルを学内で実施している。心を込めた丁寧な指導を行う概要であり、ラグビーのさらなる普及に邁進している。

SDGs



陸上競技部

事業1件



かけっこ教室

効率的・具体的な取り組みとスポーツ医・科学の知識導入を特徴としている。幼児や小学生を対象としたかけっこ教室を学外で実施している。足が速くなるコツを教える概要であり、地域の子どもの体力向上を支えている。 ※写真は2025年度のものである

SDGs



レスリング部

事業2件



日米親善高校レスリング近畿ブロック大会、レスリング教室

周囲から応援され愛される誇り高きチームを目指すことを理念に掲げる。ジュニア選手を対象としたレスリングスクールを学内で実施している。確かな技術を丁寧に指導する概要であり、地域スポーツの振興を直接支えている。

SDGs



3. 本レポートが明らかにしたこと / 今後の課題と展望

— 第1回レポートとして、中核三機能から可視化した大学スポーツエコシステム —

本レポートを通じて明らかになったのは、大阪体育大学の大学スポーツが、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を生み出す実践基盤であるということである。今回は、その価値をまず、スポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターという三つの中核機能から可視化した。これらの運動は、本学独自の大学スポーツエコシステムとして社会的価値を継続的に創出している。

また、本レポートで可視化した中核三機能の実践は、本学の大学スポーツが、特に「3:すべての人に健康と福祉を」「4:質の高い教育をみんなに」「10:人や国の不平等をなくそう」「11:住み続けられるまちづくりを」「17:パートナーシップで目標を達成しよう」といったSDGs目標に強く接続していることを明らかにした。これは、本学の大学スポーツが、健康、教育、地域共創、不平等の是正、連携という社会的価値を中核に展開していることを意味している。

一方で、大学スポーツの社会的価値は、なお社会に対して十分に可視化・共有できているとは言いきれない。今後は、学内の附置センター、教育機能、研究機能にも着目し、本学の大学スポーツエコシステムをより立体的に可視化していくことが重要である。



【本レポートが明らかにしたこと】

- 本学の大学スポーツは、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を生み出す実践基盤である。
- 本レポートでは、その価値をスポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターという中核三機能から可視化した。
- その結果、本学の大学スポーツは、特に「3:すべての人に健康と福祉を」「4:質の高い教育をみんなに」「10:人や国の不平等をなくそう」「11:住み続けられるまちづくりを」「17:パートナーシップで目標を達成しよう」に強く接続していることが明らかになった。

【課題と展望】

- 大学スポーツの社会的価値は、なお社会に対して十分に可視化・共有されているとは言いきれない。
- 今後は、学内附置センター、教育機能、研究機能を含めて捉えることで、本学の大学スポーツエコシステムをより立体的に可視化していく必要がある。

IV.

大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度 (検討中)



大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度(検討中)

共に、大体大サステナビリティを通じて社会課題の解決に歩みませんか。

学生の成長を、地域の力へ。
大学スポーツの価値を、
社会の未来へ。

大阪体育大学は、大学スポーツを通じて学生の成長、地域連携、社会のwell-being向上に取り組んでいる。本レポートで可視化した価値を一過性で終わらせず、今後さらに発展させていくために、多様なパートナーとともに持続的な社会的価値の創造につなげるため、「サステナビリティ・パートナー制度(検討中)」を進めている。支援、連携、共感。大切なのは、本学の価値と方向性を共有し、ともに未来をつくることである。

1. 支援パートナー

大学スポーツ振興やクラブ活動を支える。

大学スポーツ振興パートナー

振興全体への資金・物品提供、人的資源等の協創(例:協同実績企業など)

クラブ活動支援パートナー

各クラブの活動基盤、学生の成長、社会・地域実践を支える企業・団体・個人

2. 連携パートナー

教育・地域連携・人材育成・社会貢献をともに実践する。

主な想定対象

本学と連携協定等を締結している自治体、教育委員会、教育機関、地域団体等

3. 共感パートナー

本学とパートナーの価値と方向性をともに発信する。

主な想定対象

理念に共鳴し、将来的な連携や価値発信・広報に協力・共働いただける企業・団体等

共創へのステップ

共感 理念・ビジョンの共有

連携 対話とアクション検討

支援・共創 持続可能な取り組み実施

well-beingの実現 学生・地域・社会の幸せ

CONTACT: 大阪体育大学広報室

mail: koho.users@ouhs.ac.jp

Tel: 072-453-7021

資料 ①

大学スポーツSDGs17目標達成への貢献の判断基準

本資料は、本レポートにおける各事業・活動のSDGs目標との対応関係を判断する際の基準を示したものである。基準には、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPPO）が国連広報センター「スポーツと持続可能な開発」をもとに作成した資料『SPORT × SDGs スポーツと持続可能な開発』（2022年5月25日現在）を用いた。同資料に基づき、下記の判断基準を設定した。

1 貧困をなくそう： 経済的困難層、生活困窮家庭、社会的自立、就労支援、生活スキル支援などを明示している活動。

2 飢餓をゼロに： 栄養指導、食育、食生活改善、食料支援、農業・地産地消と結びつく活動。

3 すべての人に健康と福祉を： 健康づくり、体力向上、運動機会、介護予防、障がい者スポーツ、メンタルヘルス、ウェルビーイングに直接関わる活動。

4 質の高い教育をみんなに： 指導、講習、教室、研修、学校連携、子どもの学習、学生の実践的学びが明確な活動。

5 ジェンダー平等を実現しよう： 女性、女兒、女子競技、女性アスリート、女性指導者、ジェンダー平等を明示している活動。

6 安全な水とトイレを世界中に： 水衛生、衛生管理、水分補給教育、熱中症対策、水利用管理を目的に含む活動。

7 エネルギーをクリーンに： 省エネ、再生可能エネルギー、節電、施設エネルギー管理、環境配慮型運営を明示している活動。

8 働きがいも経済成長も： 職業訓練、キャリア教育、スポーツ産業、地域経済、雇用、ビジネス、実践的マネジメントに関わる活動。

9 産業と技術革新の基盤を： ICT、DX、AI、測定、スポーツ科学、研究開発、技術活用、施設・仕組みの改善を伴う活動。

10 人や国の不平等をなくそう： 障がい者、高齢者、子ども、外国人、低所得層、社会的孤立層など、参加機会に制約のある人を対象にした活動。

11 住み続けられるまちづくりを： 地域交流、自治体連携、住民参加、居場所づくり、防災、地域活性化、まちづくりに関わる活動。

12 つくる責任 つかう責任： リユース、リサイクル、廃棄物削減、持続可能な大会運営、物品管理、環境配慮を明示している活動。

13 気候変動に具体的な対策を： 気候変動、脱炭素、環境教育、災害復興、防災、熱中症対策、環境配慮型イベントを含む活動。

14 海の豊かさを守ろう： 海、海岸、河川、水辺、水上競技、海洋保全、清掃活動、ビーチスポーツに関わる活動。

15 陸の豊かさを守ろう： 森林、公園、里山、緑地、自然体験、清掃、陸上生態系、環境教育、自然保全を含む活動。

16 平和と公正をすべての人に： 平和、相互理解、多文化共生、防犯、警察連携、非行防止、社会統合、公正、フェアプレーを明示している活動。

17 パートナーシップで目標達成： 自治体、学校、企業、競技団体、NPO、地域団体など複数主体との連携・共催・協働が明確な活動。

資料 ②

スポーツ局管轄(学友会所属)クラブ・同好会 一覧

【2024年度】

クラブ・同好会数(男女別):52、所属部員数2,040人(所属率73.7%)

トラック&フィールド競技

- > 陸上競技部
- > トライアスロン部

ウォータースポーツ

- > 水上競技部(男子)
- > 水上競技部(女子)
- > ライフセービング部

クラブハウス

- > クラブハウス

球技

- > アメリカンフットボール部
- > 硬式野球部(男子)
- > 硬式野球部(女子)
- > 軟式野球部(男子)
- > 軟式野球部(女子)
- > サッカー部(男子)
- > サッカー部(女子)
- > ソフトテニス部(男子)
- > ソフトテニス部(女子)
- > ソフトボール部(男子)
- > ソフトボール部(女子)
- > テニス部(男子)
- > テニス部(女子)
- > バスケットボール部(男子)
- > バスケットボール部(女子)
- > バドミントン部
- > バレーボール部(男子)
- > バレーボール部(女子)
- > ハンドボール部(男子)
- > ハンドボール部(女子)
- > ラグビー部
- > ラクロス部

武道・格闘技

- > 空手道部
- > 剣道部(男子)
- > 剣道部(女子)
- > 柔道部(男子)
- > 柔道部(女子)
- > なぎなた部
- > レスリング部

体操・ダンス

- > 体操競技部(男子)
- > 体操競技部(女子)
- > ダンス部
- > 新体操部

その他

- > アスレティックトレーナーチーム
- > アダプテッド・スポーツ部
- > アルティメット部
- > 体育実技研究部
- > ダブルダッチ部
- > 野外活動部
- > 幼小体育研究部

同好会

- > ローイング同好会
- > フィールドホッケー同好会(男子)
- > フィールドホッケー同好会(女子)
- > 日本拳法同好会
- > ボクシング同好会

OUHS
ATHLETICS

スポーツ局TOP
OUHS ATHLETICS

- > スポーツ局とは
- > 施設紹介
- > スポーツ局コラム
- > スポーツ局ニュース
- > プロジェクト
- > アスリート宣言
- > 大体大スポーツの歴史



本物を学び、極める

大阪体育大学
大学スポーツ・サステナビリティ・インパクトレポート2024
OUHS College Sports Sustainability Impact Report 2024

発行日	2026年7月
対象期間	本レポートに掲載した活動および実績データは2024年度の内容に基づいている
発行人	大阪体育大学
発行所	〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
制作・監修	広報・ブランディング委員会
制作責任者	藤本淳也(学長補佐・教授、広報・ブランディング委員長)
制作協力	社会貢献センター スポーツ局 スポーツ局所属クラブ・同好会 大学院スポーツ科学研究科・大学院生(福永晴翔、岩本優人、宮内ころこ) スポーツ科学部藤本研究室(スポーツマーケティング)

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き、著作権の侵害となります。